

中間報告書

第74期 フジテック株式会社
2020年4月1日～2020年9月30日

目次

株主の皆さまへ	1
セグメント別売上高／TOPICS等	3
財務ハイライト	5
企業データ／株式についてのご案内等	6





代表取締役社長
内山 高一

お客さま・従業員・関係先の “安全・安心”を最優先に、 持続的な成長を目指します。

株主の皆さまには平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。また、新型コロナウイルス感染症に罹患された方々ならびに関係者の皆さまには、心よりお見舞い申し上げます。当社の第74期中間期(2020年4月1日から2020年9月30日まで)の事業概況についてご説明申し上げます。

■ 市場環境について

新型コロナウイルス感染症拡大が 事業環境に影響を与えています。

世界経済は新型コロナウイルス感染症拡大による経済活動への影響が長期化し、回復までに時間を要しています。

昇降機業界では、各国の活動制限措置に伴う建設工事の停止や延伸、生産工場の一部操業停止など、事業活動に大きな影響が発生しました。経済活動は再開しているものの、感染再拡大の懸念による先行き不透明感が建設計画の再開と停滞の二極化をもたらしています。新設事業とモダンゼーション事業においては、中国は需要の回復が見られ、前年同四半期並みに推移し、その他の国では新規建築計画の停滞などで需要が減少しました。一方で、保守事業は社会基盤の維持であることから、事業は安定的に推移しました。

フジテックにおいては、お客さまや従業員、関係先の“安全・安心”を最優先に、感染症拡大の防止に努めています。また各国の感染状況や政府の施策に従い、在宅勤務や3密の回避などの施策を継続しています。

主な生産工場についてお伝えしますと、日本は部材調達に軽微な影響がありましたでしたが限定的でした。中国は政府の景気

刺激策もあり、3月以降はほぼ正常化しています。インドは一部のエリアでロックダウンが長期化していましたが、生産活動は継続している状況です。

■ 2021年3月期第2四半期業績について

減収減益も、ニューノーマル対応商品の 需要が伸びています。

2021年3月期第2四半期の業績は売上高764億円、営業利益50億円となり、前年同四半期比減収減益でした。

売上高は、新設工事の停滞を主な要因として、全セグメントで減収でした。期初に発表した計画に対する進捗率は46.3%です。

一方で、新しい生活様式に求められるエレベータの「非接触ボタン」や「混雑度表示」などの衛生面を強化する新機能に注目が集まり、国内に限らず海外市場にも展開を開始しました。今年9月には国内で既設エレベータに非接触ボタンを初納入しました。

営業利益は前年同四半期比18.9%減でした。計画に対する進捗率は47.1%です。社会基盤である保守事業への影響が限定的であったことや、グローバル市場展開によるリスク分散の効果も得られ、業績は改善傾向です。国内受注は同2.5%増加

売上高
764億円

営業利益
50億円

経常利益
56億円

親会社株主に帰属する四半期純利益
34億円

1株当たりの中間配当金
20円

を確保しています。

なお、受注残高は2,165億円で、前連結会計年度末比4.2%増です。

■ 中期経営計画の進捗と今後の見通しについて これからも持続的成長を目指します。

事業戦略においては、今後も安心して昇降機を利用いただけるよう、エレベータの「非接触ボタン」やエスカレータの「ハンドレール除菌装置」など新しい生活様式に対応した技術開発にも注力し、スピーディーに商品化しました。

中長期の成長に向けた生産能力強化のため、日本・台湾・インドで生産の自動化に取り組んでいます。

2021年3月期の連結業績予想は、期初に計画した売上1,650億円、営業利益107億円を据え置きました。日本と東アジアは、徐々に回復に向かうと予想しています。北米・欧州およびインドは新型コロナウイルス感染症からの経済回復が焦点となります。中間期の配当は期初に予定したとおり、20円といたしました。期末配当は30円を予定しております。

2019年4月からスタートした中期経営計画“*Innovation, Quality & Speed*”は、初年度に最終年度の目標を超える成果

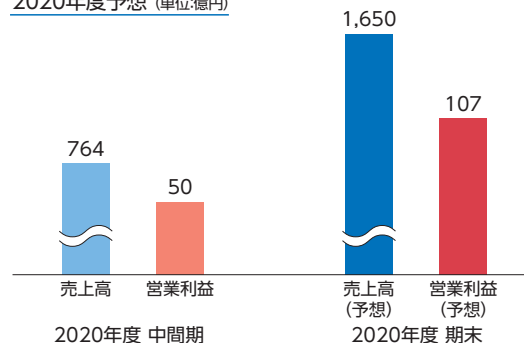
を上げました。一方で新型コロナウイルス感染症拡大の影響で経済活動の先行き不透明感が払拭できない状況が続いています。

これらを鑑み、またステークホルダーの皆さまから寄せられた貴重なご意見を踏まえ、感染再拡大の懸念による経済環境への影響を想定した、中長期的な視点に基づく“新たな戦略的方向性”を2020年12月4日に公表いたします。

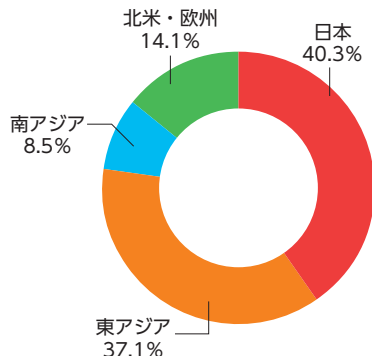
株主の皆さまには、今後とも末永いご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2020年11月

2020年度予想 (単位:億円)



セグメント別売上高



日本 売上高 **325**億円
営業利益 **15**億円

東アジア 売上高 **299**億円
営業利益 **22**億円

南アジア 売上高 **68**億円
営業利益 **11**億円

北米・欧州 売上高 **113**億円
営業利益 **0.6**億円

※セグメント別売上高の数値は、調整前の数字です。

TOPICS



ニューノーマル対応商品

コロナ禍で公衆衛生への意識が高まり、昇降機をクリーンに利用できる機能に需要が高まっています。

■非接触ボタン

赤外線センサーに手や指をかざすことでボタンに触れずにエレベータの操作ができます。既設エレベータやフロア数の多い高層建築へも対応しています。

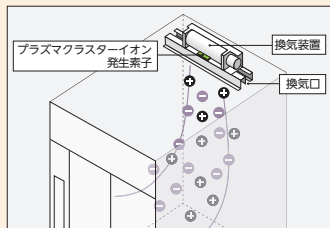


指をかざして操作するプッシュ式一体型の非接触ボタン

■イオンフル

「プラズマクラスター技術」を活用し、エレベータのかご内にプラズマクラスターイオンを放出。浮遊ウイルスの作用を抑制し、エレベータ内を快適にします。

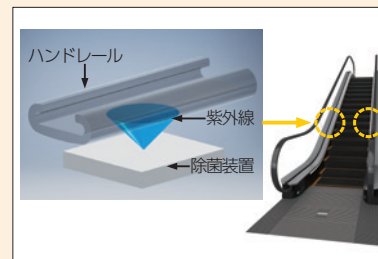
本年9月には、この技術を提供するシャープ社が新型コロナウイルスの減少効果を実証しました。



■ハンドレール除菌装置

紫外線(UV)を照射するLEDをエスカレータ内部に装着して、ハンドレールに付着した菌を減らす装置です。

ハンドレールを掴むことへの不安を減らし、安全なエスカレータの利用を促します。本年11月に販売開始しました。



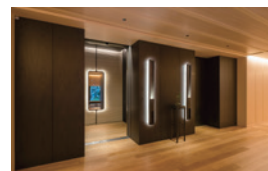
ハンドレール除菌装置の構造図 (イメージ)

各地のホテルが竣工

全国で開業が相次ぐ外資系ホテルにエレベータを納入しています。「ザ・リッツ・カールトン日光」向けにエレベータ9台、「ハイアットリージェンシー横浜」に、エレベータ7台を納入しました。安全性はもちろん、デザイン性豊かなエレベータが、施設と調和する移動空間を実現しています。



ハイアットリージェンシー横浜



ザ・リッツ・カールトン日光

新拠点「東京フィット」がグランドオープン

2020年10月、東京都大田区に新拠点「東京フィット」をグランドオープンしました。同施設は人材育成施設「エクスペリエンスセンター東京」と物流拠点「東京デポ」の2機能を有しています。

「エクスペリエンスセンター東京」では、昇降機の実機を用いた実践的な研修プログラムでフィールド技術者を育成します。「東京デポ」では、物流の自動化に加え、流通加工による付加価値の高い物流を実現し、製品流通の一翼を担います。

「東京フィット」は、首都圏の建築需要に対応するための新たなコア拠点として、据付やメンテナンスの第一線をバックアップします。



自動走行ロボットが動く東京デポ

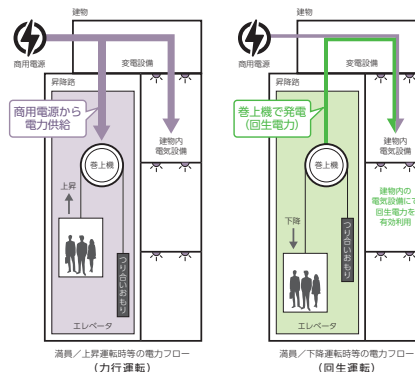


エクスペリエンスセンター東京

省エネ機能「回生システム」をラインアップ

環境に配慮した新機能として、省エネ機能「回生システム」をラインアップしました。エレベータの運転で発生する回生電力を変電設備に戻し、建物内で有効活用する機能です。エレベータの消費電力に換算して約30%の省エネ効果が得られます。

本機能は、本年4月に販売開始した新標準型エレベータ「エクシオール」のオプション機能として販売しています。



財務ハイライト

連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前期末 (2020年3月31日現在)	当第2四半期末 (2020年9月30日現在)
(資産の部)		
流動資産	140,884	138,593
固定資産	52,697	54,959
有形固定資産	34,188	33,894
無形固定資産	3,640	4,793
投資その他の資産	14,868	16,270
資産合計	193,581	Point.1 193,553
(負債の部)		
流動負債	70,083	69,580
固定負債	4,783	4,931
負債合計	74,866	Point.2 74,511
(純資産の部)		
株主資本	119,059	120,070
その他の包括利益累計額	△ 12,145	△ 12,958
新株予約権	40	35
非支配株主持分	11,760	11,893
純資産合計	118,714	Point.3 119,041
負債・純資産合計	193,581	193,553

Point.1 資産合計

資産合計は、1,935億53百万円となり、前連結会計年度末に比べ28百万円減少しました。これは主に、現金及び預金および英国での企業買収に伴うのれんの増加に対し、受取手形及び売掛金が減少したことによりです。

Point.2 負債合計

負債合計は、前連結会計年度末に比べ3億55百万円減少し、745億11百万円となりました。これは主に、前受金の増加に対し、支払手形及び買掛金、電子記録債務、短期借入金が減少したことによりです。

Point.3 純資産合計

純資産合計は、1,190億41百万円となり、前連結会計年度末に比べ3億26百万円増加しました。これは主に、為替換算調整勘定の減少18億3百万円に対し、その他有価証券評価差額金の増加8億69百万円、利益剰余金の増加10億4百万円によりです。

連結損益計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期 (2019年4月1日～2019年9月30日)	当第2四半期 (2020年4月1日～2020年9月30日)
売上高	85,859	76,418
売上原価	66,726	59,002
売上総利益	19,132	17,416
販売費及び一般管理費	12,913	12,375
営業利益	6,218	5,041
営業外収益	933	899
営業外費用	225	329
経常利益	6,926	5,611
特別利益	128	1
特別損失	64	84
税金等調整前四半期純利益	6,989	5,528
法人税、住民税及び事業税	1,590	2,255
法人税等調整額	113	△ 658
四半期純利益	5,285	3,931
非支配株主に帰属する 四半期純利益	697	492
親会社株主に帰属する 四半期純利益	4,587	3,438

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期 (2019年4月1日～2019年9月30日)	当第2四半期 (2020年4月1日～2020年9月30日)
営業活動による キャッシュ・フロー	5,786	12,292
投資活動による キャッシュ・フロー	△ 2,551	△ 7,693
財務活動による キャッシュ・フロー	△ 2,818	△ 4,080
現金及び現金同等物に 係る換算差額	△ 752	△ 869
現金及び現金同等物の 増減額	△ 336	△ 351
現金及び現金同等物の 期首残高	25,902	28,181
現金及び現金同等物の 四半期末残高	25,566	27,829

詳細は当社ホームページをご覧ください。

<https://www.fujitec.co.jp/ir>



企業データ

■ 会社の概況 (2020年9月30日現在)

創 業 1948年2月9日
 資本金 125億3,393万円
 所在地 本社ビッグウイング
 滋賀県彦根市宮田町591番地1
 TEL (0749) 30-7111
 東京本社
 東京都港区白金1丁目17番3号
 TEL (03) 4330-8200

連結子会社 19社

■ 役員 (2020年9月30日現在)

[取締役]

代表取締役社長 内山 高一
 代表取締役副社長 岡田 隆夫
 取締役 加藤 義一
 取締役 浅野 隆史
 社外取締役 佐伯 照道
 社外取締役 杉田 伸樹
 社外取締役 山添 茂
 社外取締役 遠藤 邦夫
 社外取締役 山平 恵子

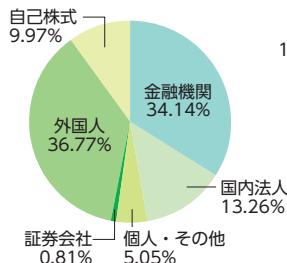
[監査役]

社外監査役(常勤) 石川 賢一
 監査役(常勤) 宇都宮靖雄
 社外監査役 池田 辰夫
 監査役 平光 聡

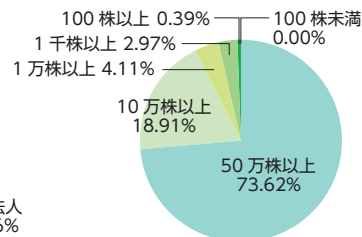
株式の状況 (2020年9月30日現在)

発行済株式の総数	株主数	上場証券取引所
90,067,000株	3,454名	東京証券取引所

■ 所有者分布状況



■ 所有株数別分布状況



■ 大株主一覧

株主名	持株数(百株)	持株比率(%)
1. 日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	64,567	7.96
2. 株式会社ウチヤマ・インターナショナル	50,439	6.22
3. 株式会社りそな銀行	40,516	5.00
4. ジェーピー モルガン バンク ルクセンブルク エスエイ 381572	37,811	4.66
5. 株式会社日本カストディ銀行(信託口4)	32,511	4.01
6. 株式会社日本カストディ銀行(信託口)	28,601	3.53
7. ジェーピー モルガン チェース バンク 385632	23,768	2.93
8. SSBTC CLIENT OMNIBUS ACCOUNT	22,502	2.78
9. ジェーピー モルガン チェース バンク 380055	21,175	2.61
10. 株式会社みずほ銀行	19,892	2.45

(注1) 持株比率は2020年9月30日現在の発行済株式総数である90,067,000株から自己株式8,979,189株を除いた81,087,811株を基準に計算しています。

(注2) 当社は自己株式8,979,189株を所有しておりますが、上記の大株主(上位10名)の中には含まれていません。

株式についてのご案内

- 事業年度 4月1日から翌年3月31日まで
- 定時株主総会 毎年6月
- 基準日 定時株主総会・期末配当：毎年3月31日 中間配当：毎年9月30日
- 公告方法 電子公告により行います。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告によることができない場合の公告方法は、日本経済新聞に掲載することといたします。
ホームページアドレス：<https://www.fujitec.co.jp/koukoku>
- 株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関 東京都千代田区丸の内1丁目4-1 三井住友信託銀行株式会社
- 郵便物送付先 〒168-0063 東京都杉並区和泉2丁目8-4 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
- 電話照会先 電話 (0120)782-031 (フリーダイヤル)

ユニバーサルデザインへの取り組み

フジテックのエレベータはどなたにもわかりやすく、使いやすいエレベータを目指してユニバーサルデザインを取り入れています。また、本年4月に販売開始した新標準型エレベータ「エクシオール」では、カラーユニバーサルデザインの認定を新たに取得しました。その他にも操作ボタンやアナウンスなど細部まで使いやすさを追求しています。多様な人々が共存できる社会の実現に向け、「安全・安心」な移動空間の提供で貢献します。

■カラーユニバーサルデザイン

エクシオールの乗場とかごの操作盤は色覚の個人差を問わず、より多くの人に見やすい色でつくられています。このカラーユニバーサルデザインは、NPO法人カラーユニバーサルデザイン機構に認定されています。



■タクトイルボタン

目の不自由な方も指で触れて識別しやすいように数字やマークに凸文字を使ったタクトイルボタンを基本仕様として採用しています。また光や音でボタンが押されたことをお知らせします。



■多言語対応音声案内

通常時は2カ国語のところ、地震など緊急時には日・英・中・韓の4カ国語で液晶インジケータの案内表示とアナウンスを行います。



当社のウェブサイトをご覧ください

IR情報をはじめ、さまざまな情報を掲載しております。ぜひご覧ください。

- フジテックNavi
- 設計者向け図面情報
- 製品・サービス
- エレベータ・デザインシミュレーター
- 納入実績



<https://www.fujitec.co.jp>

フジテック株式会社



見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。



環境負荷の少ない「植物油インキ」を使用しています。



適切に管理された森林の木材を原料として生産された紙を使用しています。